

A
レベル

最終レポート修正シート

チーム番号()	氏名()
評価者1 氏名()	役割(係)
評価者2 氏名()	役割(係)

Yes か No のいずれかに をつけていきましょう。

表紙	評価者1	評価者2
目標レベルが示されている	Yes/No	Yes/No
目標レベルの理由が示されている	Yes/No	Yes/No
講義名, 学籍番号, 学科, 回生, 名前, チーム番号が示されている	Yes/No	Yes/No
公開に関する意思が a, b, c のいずれかで示されている 特別加点を目指す場合はどちらも必ず「a」で示さなければならない	Yes/No	Yes/No

アブストラクト 特別加点を目指す場合

表紙と目次の間にアブストラクトが作成されている (12-1-2 参照)	Yes/No	Yes/No
全体の主張・第1章の概要・第2章の概要・第3章の概要が書けている	Yes/No	Yes/No
全体・第1章・第2章・第3章の全ての項目の内容が一連のストーリーのような形で関わっており、主張が理解しやすい(バラバラになっていない)	Yes/No	Yes/No
キーワード(本文中に何度か使用されている専門用語)が 5, 6 語列挙されている	Yes/No	Yes/No

目次

目次が示されている	Yes/No	Yes/No
-----------	--------	--------

参考文献と引用文献

教科書・志水宏吉「学力を育てる」配布資料 <u>以外</u> に自分で探した文献を <u>2冊以上</u> 使用している	Yes/No	Yes/No
(Web ページを 2 冊の中の 1 冊分として示している場合)		
政府刊行のデータや白書や学术论文が電子式文書にされたものである	Yes/No	Yes/No
- Web ページに公開された白書は、資料の正式名と発行元と URL を, Web ページに公開された学术论文は、著者、発表年、表題、雑誌名, 巻数、論文所在ページの順に示している (アクセスした日付も記入)	Yes/No	Yes/No
文中の文献の表記方法は適切である (12-1-3 要参照)	Yes/No	Yes/No
レポートの最後に文献リストが示されている 著者(出版年), 「タイトル」, 出版社	Yes/No	Yes/No

図表 図表を使用している場合

使用された図表は、文の趣旨を理解するために効果的に用いられている	Yes/No	Yes/No
使用された図表は必要以上に大きな紙面(50%以上)を占めていない	Yes/No	Yes/No

裏面もあります

ひとつでも「No」がつけられていたら、目標に到達できるようにその部分を修正しましょう。

文	評価者1	評価者2
「です・ます調」と「である調」が混合して使用されていない	Yes/No	Yes/No
「と思う」「と考える」はあまり使用せず、データや文献を根拠として、明確に主張を述べている	Yes/No	Yes/No

枚数	評価者1	評価者2
表紙(アブストラクト)・目次を含めずに10枚以上書かれている ページ全体の半分以上が書かれている状態で1枚カウントできる アブストラクトは特別加点を目指す場合のみ	Yes/No	Yes/No

誤字脱字(例:清水宏吉× 志水宏吉、小子化× 少子化)や、誤った接続詞の使い方(文頭に「なので、」を用いることは誤り)をしている部分に赤ペンで指摘した	Yes/No	Yes/No
---	--------	--------

評価者1 コメント

相互評価確認表(色つきシートの右ページ)下に直筆署名を忘れずに

評価者2 コメント

相互評価確認表(色つきシートの右ページ)下に直筆署名を忘れずに

B
レベル

最終レポート修正シート

チーム番号()	氏名()
評価者1 氏名()	役割(係)
評価者2 氏名()	役割(係)

Yes か No のいずれかに をつけていきましょう。

表紙	評価者1	評価者2
目標レベルが示されている	Yes/No	Yes/No
目標レベルの理由が示されている	Yes/No	Yes/No
講義名, 学籍番号, 学科, 回生, 名前, チーム番号が示されている	Yes/No	Yes/No
公開に関する意思が a,b,c のいずれかで示されている	Yes/No	Yes/No

目次		
目次が示されている	Yes/No	Yes/No

参考文献と引用文献		
教科書・志水宏吉「学力を育てる」配布資料などを使用している	Yes/No	Yes/No
文中の文献の表記方法は適切である (12-1-3 要参照)	Yes/No	Yes/No
レポートの最後に文献リストが示されている	Yes/No	Yes/No

配布資料を使用している場合は「教育方法学配布資料[?](資料のタイトル)」より引用」と示す

図表 図表を使用している場合		
使用された図表は、文の趣旨を理解するために効果的に用いられている	Yes/No	Yes/No
使用された図表は必要以上に大きな紙面(50%以上)を占めていない	Yes/No	Yes/No

文	評価者1	評価者2
「です・ます調」と「である調」が混合して使用されていない	Yes/No	Yes/No
「と思う」「と考える」はあまり使用せず、データや文献を根拠として、明確に主張を述べている	Yes/No	Yes/No

枚数		
表紙・目次を含めずに 10 枚以上書かれている	Yes/No	Yes/No

注) ページ全体の半分以上が書かれている状態で 1 枚カウントできる

誤字脱字(例: 清水宏吉 × 志水宏吉, 小字化 × 少字化)や、誤った接続詞の使い方(文頭に「なので、」を用いることは誤り)をしている部分に赤ペンで指摘した	Yes/No	Yes/No
---	--------	--------

裏面もあります

ひとつでも「No」がつけられていたら、目標に到達できるようにその部分を修正しましょう。

評価者1 コメント

相互評価確認表(色つきシートの右ページ)下に直筆署名を忘れずに

評価者2 コメント

相互評価確認表(色つきシートの右ページ)下に直筆署名を忘れずに



最終レポート修正シート

チーム番号()	氏名()
評価者1 氏名()	役割(係)
評価者2 氏名()	役割(係)

Yes か No のいずれかに をつけていきましょう。

表紙	評価者1	評価者2
目標レベルが示されている	Yes/No	Yes/No
目標レベルの理由が示されている	Yes/No	Yes/No
講義名, 学籍番号, 学科, 回生, 名前, チーム番号が示されている	Yes/No	Yes/No
公開に関する意思が a,b,c のいずれかで示されている	Yes/No	Yes/No

目次		
目次が示されている	Yes/No	Yes/No

図表	図表を使用している場合	
使用された図表は、文の趣旨を理解するために効果的に用いられている	Yes/No	Yes/No
使用された図表は必要以上に大きな紙面(50%以上)を占めていない	Yes/No	Yes/No

文		
「ですます調」と「である調」が混合して使用されていない	Yes/No	Yes/No
「と思う」「と考える」はあまり使用せず、データや文献を根拠として、明確に主張を述べている	Yes/No	Yes/No

枚数		
表紙・目次を含めずに 10 枚以上書かれている	Yes/No	Yes/No
注) ページ全体の半分以上が書かれている状態で 1 枚カウントできる		

誤字脱字(例: 清水宏吉 × 志水宏吉, 小子化 × 少子化) や、誤った接続詞の使い方(文頭に「なので、」を用いることは誤り)をしている部分に赤ペンで指摘した	Yes/No	Yes/No
--	--------	--------

裏面もあります

ひとつでも「No」がつけられていたら、目標に到達できるようにその部分を修正しましょう。

評価者1 コメント

相互評価確認表(色つきシートの右ページ)下に直筆署名を忘れずに

評価者2 コメント

相互評価確認表(色つきシートの右ページ)下に直筆署名を忘れずに